



田んぼの 生きもの図鑑

— 昆虫編 バッタ目 —



(社) 農村環境整備センター

この図鑑は、宝くじの普及宣伝事業として作成されたものです。

田んぼの生きもの図鑑について

社団法人 農村環境整備センター

この「田んぼの生きもの図鑑」は、生きもの調査や環境教育等の場で活用できるハンディタイプの図鑑シリーズです。昆虫類では、平成20年度に「水生昆虫編Ⅰ コウチュウ目・カメムシ目」、21年度に「水生昆虫編Ⅱ トンボ目」として発行し、今年度は「昆虫編 バッタ目」として、この図鑑を編集しました。

バッタ目の「バッタ、コオロギ、キリギリスの仲間」は田んぼの生態系を構成する重要な一員で、古くから人々に親しまれてきました。たとえばコオロギやキリギリスなどの「鳴く虫」は、季節の風物詩として虫の音を楽しむ文化を生みしました。また、イナゴは、イネの害虫というイメージの反面、農村では貴重なタンパク源として佃煮などにして食べられてきました。この図鑑を活用し、こうした文化・生活面にも触れ、今まで以上に生きものたちに親しんでもらえると幸いです。

図鑑の活用にあたって

この図鑑では、日本に生息するバッタ目の中から、とくに田んぼや畑の周辺でよくみられる種を中心に、近い仲間のカマキリ3種を含め54種を紹介しています。初心者でもわかりやすいように、まず大きくキリギリス、コオロギ、バッタに分類した上で、それぞれの細かな仲間への分け方を解説しています。また、各種のページにも似た種との区別点を盛り込んでいます。そのほか、体の色やはねの長さの違い、鳴き方や鳴き声の特徴、虫の文化史、捕まえ方や飼い方などの解説も加えました。

(参考文献)大阪市立自然史博物館・大阪自然史センター「鳴く虫セレクション」東海大学出版会／岡田正哉「カマキリのすべて」トンボ出版／小林正明「信州の秋に鳴く虫とそのなかま」秋の虫の会／日本直翅類学会編「バッタ・コオロギ・キリギリス大図鑑」北海道大学出版会／松浦一郎「虫はなぜ鳴く」文一総合出版



イラスト トミタ・イチロー／中原直子

デザイン 齊藤知也

写真・提供者 石川 均／片岡宏樹／齊藤秀生／里の生き物研究会／(財)自然環境研究センター／長岡 伸／中原直子／中西由美子／永野 裕

表紙の写真

- 1 ヒガシキリギリス
- 3 マツムシ
- 5 コバネイナゴ

- 2 エンマコオロギ
- 4 クビキリギリス
- 6 オオカマキリ

■ 草むらの生きものの見分け方	4
バッタ目の見分け方	6
カマキリ目の見分け方	7
■ バッタの仲間を見分け方① キリギリスの仲間たち	8
バッタの仲間を見分け方② コオロギの仲間たち	10
バッタの仲間を見分け方③ バッタの仲間たち	12
■ 若葉色のバッタと枯葉色のバッタ	14
■ 短翅型と長翅型	15
■ 成虫の出現期	16
■ 本書でのアイコンの見方	17
【コラム】 バッタ類の耳	17

キリギリスの仲間

【コラム】 キリギリスの2つの産卵様式	18
ツユムシ、セスジツユムシ	19
クツワムシ、ハヤシノウマオイ	20
ヒメギス、コバネヒメギス	21
ヒガシキリギリス、ヤブキリ	22
カヤキリ、クビキリギス	23
クサキリ、ヒメクサキリ	24
オナガササキリ、コバネササキリ	25
ウスイロササキリ、ホシササキリ	26

コオロギの仲間

エンマコオロギ	27
ツツレサセコオロギ、ミツカドコオロギ	28
ハラオカメコオロギ、タンボオカメコオロギ	29
タンボコオロギ、クマコオロギ	30
クマスズムシ、スズムシ	31
マツムシ、アオマツムシ	32
カンタン、クサヒバリ	33
マダラスズ、シバズズ	34
ヤチスズ、カネタタキ	35
ケラ	36
【コラム】 田んぼで鳴くと言われるミミズの正体は？	36

バッタの仲間

ノミバッタ	37
ハラヒシバッタ、トゲヒシバッタ	38
オンブバッタ、ショウリョウバッタ	39
ショウリョウバッタモドキ、ツチイナゴ	40
コバネイナゴ、ハネナガイナゴ	41
ツマグロバッタ (ツマグロイナゴ)、トノサマバッタ	42
クルマバッタモドキ、クルマバッタ	43
イボバッタ、マダラバッタ	44
ヒナバッタ、ナキイナゴ	45

カマキリの仲間

コカマキリ	46
オオカマキリ、カマキリ (チョウセンカマキリ)	47

■ バッタやコオロギのすむ生息環境	48
■ 鳴き方のいろいろ	50
■ キリギリスの一生	52
■ コオロギの一生	54
■ バッタの一生	56
■ 鳴く虫やバッタの文化史	58
■ 生きものの調査の基本① 田んぼで気をつけること	60
鳴く虫を捕まえるテクニック	61
■ 生きものの調査の基本② 鳴く虫の飼い方と声の鑑賞	62

草むらの生きものの見分け方

せっそく 節足動物（あしに節をもつ動物）

あしが6本あるもの（昆虫類）

前ばねが^{かた}硬くなっている、体を^{おお}覆っている（コウチュウ類）



ゴミムシ類

見かける場所
土の上



コガネムシ類

見かける場所
葉の上

前ばねが硬くなっていない（コウチュウ類^{いがい}以外）

→ 後あしは^は跳ねるようになっていない

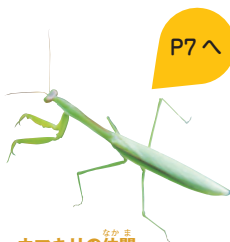


ハサミムシ類

見かける場所
土の上

P〇へ

このマークがついて
いる虫は、本誌で^{ほんし}解^{かい}
説^{せつ}しています。



P7 へ

カマキリ^{なかま}の仲間

見かける場所
土や葉の上

田んぼや畑の草むらには、いろいろな昆虫類などの小動物が
見られます。このうち、バッタやコオロギの仲間^{なかま}は、よく跳
ねる大きな後あしを持っています。

あしが8本以上あるもの（その他の節足動物）^{せつそく}

あしは8本（クモ類^{るい}）



クモ類

見かける場所
土や葉の上

あしは14本（等脚類^{とうきゃくるい}）



ダンゴムシ

見かける場所
土の上

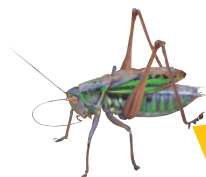
あしは18本以上（多足類）



ヤスデ類

見かける場所
土の上

→ 後あしは跳ねるように丈夫になっている（バッタ目の仲間^{なかま}）^は ^{じょうぶ}



キリギリスの仲間

見かける場所
葉の上

P7 へ

P6 へ



バッタの仲間

見かける場所
土や葉の上

P6 へ



コオロギの仲間

見かける場所
土や葉の上

バッタ目の見分け方

バッタ目（バッタの仲間）は、日本では約450種が確認されている。これらは、体のつくりから、大きく「コオロギ亜目」と「バッタ亜目」に分けられる。

※カマキリはバッタとは別の目である。

コオロギ亜目

→ 18-36 ページへ

触角 かみしゅうめく 髪の毛のように細長い

耳

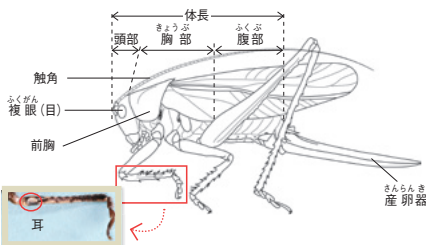
前あしのすねにある

キリギリスの仲間



8 ページへ

体は全体に左右に平たい

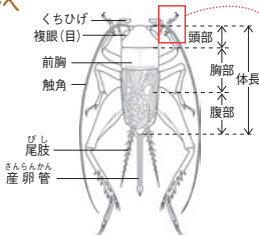


コオロギの仲間



10 ページへ

体は全体に上下に平たい



バッタ亜目
→ 37-45 ページへ

触角 太く短い
(30 節以下)

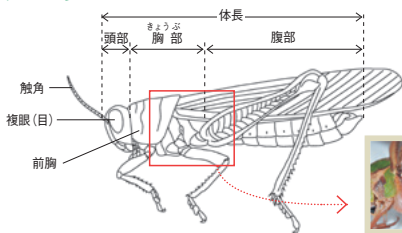
耳 腹部の
第1節にある

バッタの仲間



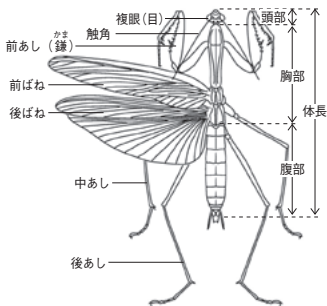
→ 12 ページへ

体は全体に左右に平たい

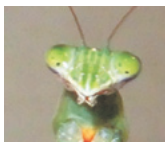


カマキリ目の見分け方

前あしはカマのような形で中あしと後あしの4本で歩く。



前あしの鎌を振り上げ、はねを開いて威嚇する



頭は平たく、三角形で左右上下によく動く

なかも
バッタの仲間の
見分け方①

あもく
コオロギ亜目

キリギリスの仲間たち

キリギリスの仲間は、日本では約 130 種が確認されている。田んぼまわりで見られるキリギリスは体のつくりから、大きく「ツユムシ科」、「クツワムシ科」、「キリギリス科」に分けられる。

さんらん き
産卵器

鎌型
幅が
広が
って、
曲が
り、



産卵器

ツユムシ科
→ 19 ページへ

産卵器

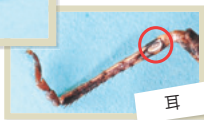
細長
く、
長刀
型



産卵器

耳

幅広く、全体に
だ円形



耳

クツワムシ科
→ 20 ページへ



産卵器

耳

幅広く、全体に
細長い



耳

キリギリス科
→ 次のページへ

キリギリス科の仲間

前あしの脛節端の前の刺^{けいせつたん とげ}

ある



ない



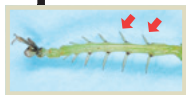
キリギリス類
→ P21 ~ 22

前あしの脛節の刺

そんなに長くない



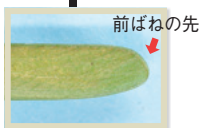
目立つくらいとても長い



ウマオイ類
→ P20

頭の先・後ばね

後ばねは前ばねから出ていない



クサキリ類
→ P23 ~ 24

後ばねは前ばねから出ている



ササキリ類
→ P25 ~ 26

なかま
バッタの仲間の
見分け方②

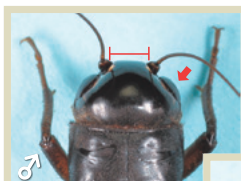
あもく
コオロギ亜目

コオロギの仲間たち

コオロギの仲間は、日本では約90種が確認されている。
田んぼのまわりで見られるコオロギは、体のつくりから、
大きく「コオロギ科」、「マツムシ科」、「カネタタキ科」、
「ケラ科」に分けられる。

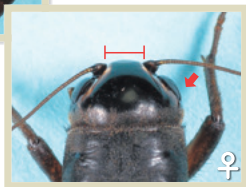
目

あまり
出ていない



エンマコオロギ

コオロギ科
→ 27-31 ページへ

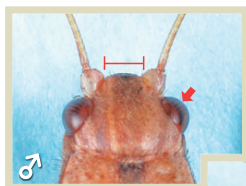


ひたい

幅が広い

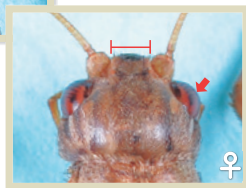
目

ふくらんで
出ている



マツムシ

マツムシ科
→ 31-33 ページへ



ひたい

幅がせまい

変わったコオロギの仲間 なかま ≡

体は全体にウロコをまとう
(普通のコオロギは細かい毛があるだけ)

カネタタキ科

→ 35 ページへ



カネタタキ (鱗毛)

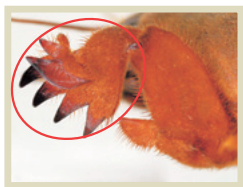


コオロギ (細毛)
(クマコオロギ)

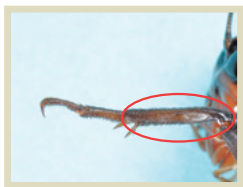
前あしの脛節がモグラのようになっている

ケラ科

→ 36 ページへ



ケラの前あしの脛節



コオロギの前あしの脛節
(エンマコオロギ)

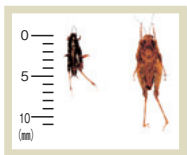
なかま
バッタの仲間の
見分け方③

あもく
コオロギ亜目
バッタの仲間たち

バッタの仲間（バッタ亜目）は、日本では約120種が確認されている。田んぼまわりで見られるバッタは、体のつくりから、大きく「ノミバッタ科」、「ヒシバッタ科」、「オンブバッタ科」、「バッタ科」に分けられる。

体

黒く光沢があり
とても小さい



ノミバッタ科
→ 37 ページへ



後あしの附節は1節

体

7.7 mm 以上

ぜんきょう
前胸

後ろ側に長く、腹部をおおう



ヒシバッタ科
→ 38 ページへ

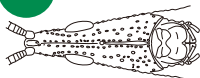
前胸

後ろ側に短い



顔

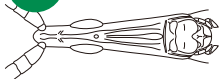
小さいイボの列がある



オンブバッタ科
→ 39 ページへ

顔

小さいイボの列はない



バッタ科
→ 13 ページへ

バッタ科のいろいろな仲間

頭の先はとがっていて、前方に伸びている

いない

いる



ショウリョウバッタ
の仲間 → P39 ~ 40



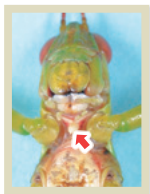
のど^{とど}の下に飛び出した部分がある

ある

ない



トノサマバッタの
仲間 → P42 ~ 45



イナゴの仲間
→ P40 ~ 41

バッタの色は
さまざま

わかばいろ
若葉色のバッタと
かれはいろ
枯葉色のバッタ

キリギリスやバッタの仲間^{なかま}は、草むらで身を守るために
草によく似た色^にをしています。同じ種^{しゅ}でも若葉色をした
ものと枯葉色をしたものがいるので、種を見分ける^{ひつよう}とき
には注意が必要です。

キリギリス
の仲間

同じ種でも、体が緑色のものと茶色のものがい
る



ササキリ類
(ウスイロササキリ)



クサキリ

バッタ
の仲間

オンブバッタのように体の色^{いろがわ}変りがあるもの、ト
ノサマバッタのように頭や前胸、後あし^{せんきょう}のまも
など体の一部だけに色変りがあるもの、ショウ
リョウバッタはこの両方がある

オンブ
バッタ



ショウ
リョウ
バッタ



クルマ
バッタ
モドキ



同じ種でも
はねの長さが違う

短翅型と長翅型

バッタやコオロギやキリギリスは、種類によって体に占めるはねの長さが違い、「コバネ」が種の特徴になっているものもあります。ところが、同じ種でもはねの短いものと長いものがあります。見分けるときには注意しましょう。

短翅型



コオロギ類
(オカメコオロギ)

長翅型



短翅型



キリギリス類
(ヒメギス)

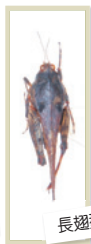
長翅型



ヒシバッタ



短翅型



長翅型

コバネイナゴ

短翅型



長翅型



成虫の出現期

バッタやコオロギは種類によって成虫が現れる時期がが少しずつちが違ってきます。

秋の虫と思われがちな「鳴く虫」たちも、実は梅雨のころから成虫の現れる種が最も多く、次いで多いのは真夏から現れ、秋まで見られる種です。なかには、ケラのように出現期が長いもの、カヤキリのように2ヶ月くらいの短いもの、ノミバッタのように夏はしないもの、クビキリギス・ツチイナゴのように成虫で冬を越すものもあります。

○掲載種の出現期によるグループ分け（種名の前の数字は解説のページ数）

	種名	月 主な出現期											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
梅雨のころから現れる	21. ヒメギス、26. ウスイロササキリ、26. ホシササキリ												
	22. ヒガシキリギリス、22. ヤブキリ												
	25. オナガササキリ												
	27. エンマコオロギ、28. ツツレサセコオロギ												
	28. ミツカドコオロギ、29. ハラオカメコオロギ												
	29. タンボオカメコオロギ、30. クマコオロギ												
	31. クマズムシ、31. スズムシ、32. マツムシ												
	32. アオマツムシ、33. カンタン、33. クサヒバリ、35. カネタタキ												
	42. ツマグロバッタ、42. トノサマバッタ												
	43. クルマバッタモドキ、43. クルマバッタ												
真夏のころから現れる	44. イボバッタ												
	45. ナキイナゴ												
	19. ツユムシ、19. セズジツユムシ												
	20. クツワムシ、20. ハヤシノウマオイ												
	21. コバネヒメギス												
	24. クサキリ、24. ヒメクサキリ												
	25. コバネササキリ												
出現期が長い	39. オンブバッタ、39. ショウリョウバッタ												
	40. ショウリョウバッタモドキ、41. コバネイナゴ												
	41. ハネナガイナゴ、44. マダラバッタ												
	46. コカマキリ、47. オオカマキリ、47. カマキリ												
	30. タンボコオロギ												
	34. マダラスズ												
	34. シバズ												
その他の変わった出現期	35. ヤチスズ												
	36. ケラ												
	38. ハラヒシバッタ、38. トゲヒシバッタ												
	45. ヒナバッタ												
	●出現期が短い												
	23. カヤキリ												
	●夏にいない時期がある												
その他の変わった出現期	37. ノミバッタ												
	●成虫で越冬をする												
	23. クビキリギス												
	40. ツチイナゴ												

本書でのアイコンの見方

種の解説ページ（P18～P47）では、種によって異なる生息域の分類を以下のように4つのアイコンで表わしています。



林縁・藪

林の縁や藪になっているような場所



裸地・荒地

地面が見えて草がまばらに生えているような場所



丈の高い草地

腰や胸くらいの高さの草の生えているような場所



丈の低い草地

膝の高さより低い草が生えているような場所

●色について

場所ごとに生息の状況について、以下の3つの表記のし方で表わしています。



カラー

おもに生息している場所



モノクロ

生息していることもある場所



ぬりつぶし

生息していない場所

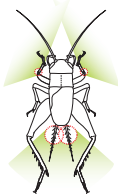
コラム

バッタ類の耳 音を感じる部分と 聞こえる方向

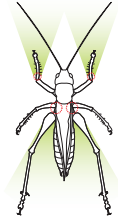
秋の虫のなかでも、コオロギ、キリギリス、バッタでは、音を感じる部分や聞こえる方向が違ってきます。コオロギは前足の耳で斜め前方と尾肢で後方の音を聞きます。キリギリスは前足の耳で前方を、前胸の

側方で後方の音を聞き、バッタは腹部の第1節の側方にある耳で広く横方向の音を聞きます。

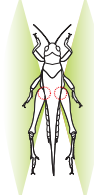
印のところが音を感じる部分の位置



コオロギ



キリギリス

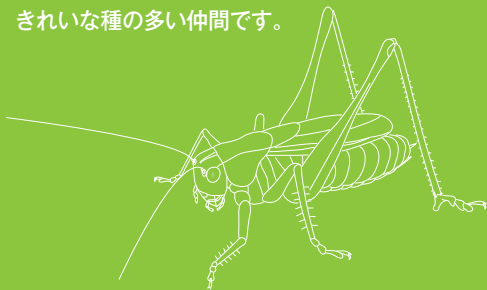


バッタ

市川顕彦（2010）より一部変更

キリギリスの仲間

キリギリスの仲間は、バッタよりコオロギに近いグループです。草や木の葉の上で生活するものが多く、キリギリスやクツワムシ、ウマオイなどは「鳴く虫」としても有名です。鮮やかな緑色をしているものや、ヤブキリやカヤキリのように大きい種もいて、コオロギより見つけやすく、きれいな種の多い仲間です。



コラム

キリギリスの2つの産卵様式

植物の茎などに卵を産む仲間

ツユムシなど高い草や低い木の上などで生活する種では、産卵器が鎌のような形をしていて植物の中に卵を産む。



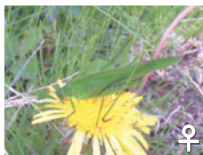
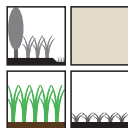
土の中などに卵を産む仲間

地面近くで生活する種では、産卵器が細長い刀のような形をしていて、コオロギのように地面の土の中に卵を産む。



ツユムシ

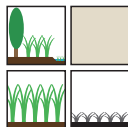
- ツユムシ科 ● 体長：13～15mm
- 出現期：8～10月
- 分布：北海道・本州・四国・九州・南西諸島



オス、メスとも体は全体が細長く緑色で、^{ぜんきよう}前胸の背面や^{はいめん}後縁、はねの重なる部分が細くわずかに^{かつしよく}褐色である。開けた^{こうえん}やや丈の高い^{たけ}草地に生息する。草の上に登り、最初は^{さいしよ}プチッ・プチッ…、やがてプツツツツジィジィとリズムカルな鳴き方をする。

セスジツユムシ

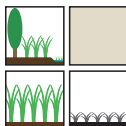
- ツユムシ科 ● 体長：13～22mm
- 出現期：8～10月
- 分布：本州・四国・九州・南西諸島



体の色が緑色のものと^{かつしよく}褐色のものがいる。オスでは^{せなか}背中側の頭や前胸の背面からはねの先までよく目立つ褐色、メスでは黄褐色である。林に近く、やや丈の高い^{たけ}植物の上に登り、鳴き声はチッ・チッ…で始まり、次第に早くチチチ…となり、やがてジーツチョ・ジーツチョ…で終わる。

クツワムシ

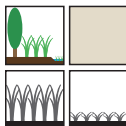
- クツワムシ科 ●体長：50～53mm
- 出現期：8～10月
- 分布：本州・四国・九州



体は大きく、緑色のものと^{かつしよく}褐色のものがある。緑色のものも、あしや背^せ中側には褐色部がある。はねは横から見ると、オスでは中央で^{さいだいはば}最大幅になるが、メスでは^{たけ}広くない。丈^{りんえん}の高い草地や林縁^{ていほく}の低木の上で、大きな声でガチャ・ガチャ…と鳴く。

ハヤシノウマオイ

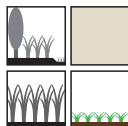
- キリギリス科 ●体長：30～47mm
- 出現期：8～10月
- 分布：本州・四国・九州・南西諸島



体は緑色で、頭^{ぜんきよう}のてっぺんから前胸^{はいめん}の背面、はねの重なっている部分、あしの先は褐色。前あしと中あし脛^{かつしよく}節には、とくに目立ったとげ^{なら}が並んでいる。はねは横から見るとオスでは中央で^{さいだいはば}最大幅になる。丈^{たけ}の高い草地^{りんえん}や林縁^{てい}の低木^{ほく}の上で、スーイ・チョンと鳴く。

ヒメギス

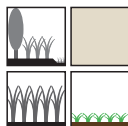
- キリギリス科 ●体長：17～27mm
- 出現期：6月下旬～10月
- 分布：北海道・本州・四国・九州



体は黒色で、あしやはねは暗い褐色。頭から前胸の背面、はねの重なり部分が、茶褐色のものとあざやかな緑色のものとがいる。幼虫は全体に褐色から暗褐色で、横から見ると胸の斜めの白い線が良く目立つ。やや丈の高い草地で、シリリリリ・シリリリリ…と鳴く。

コバネヒメギス

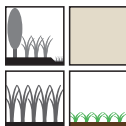
- キリギリス科 ●体長：15～26mm
- 出現期：8～10月
- 分布：北海道・本州・四国・九州



体は暗い褐色で、側面がより黒く、腹面は黄白色から黄緑色。頭部やあし、はねは茶褐色。オス成虫のはねは腹部の半分ほどで、メスはさらに短い。ヒメギスの成長した幼虫と間違えられやすい。やや丈の高い草地で、チリッ・チリッ…と小さな声で鳴く。

ヒガシキリギリス

- キリギリス科 ●体長：24.5～37mm
- 出現期：7～9月
- 分布：本州（青森県～岡山県）

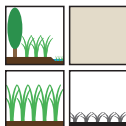


幼虫

体の色が緑色のものと褐色^{かつしよく}のものがいる。はねは緑色で、横から見ると細かな暗色のまだらがあり、背面は褐色^{はいめん}。幼虫^{ようちゆう}は緑色で、背中側の両側^{せなかがわ}に細い黒褐色条^{こっかつしよくじょう}がある。メスの産卵器^{さんらんき}はゆるく下に曲がる。初夏^{たけ}から丈の高い草地で、チョン・ギースと鳴く。

ヤブキリ

- キリギリス科 ●体長：45～58mm
- 出現期：7～9月
- 分布：本州・四国

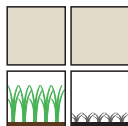


幼虫

体は全体に緑色で、頭から前胸^{ぜんきよう}の背面^{はいめん}、はねの合わせ目にそって細長い褐色部^{かつしよくぶ}がある。幼虫^{ようちゆう}は緑色で、背中側の中央線^{たておび}にそって褐色の縦帯^{さんらんき}がある。メスの産卵器^{さんらんき}はまっすぐ。幼虫は草はらの花の上で見つかり、成虫は木の上^{せいちゆう}でセミなどを捕らえて食べる。シュリリリ…と鳴く。

カヤキリ

- キリギリス科 ●体長：63～67mm
- 出現期：8～9月
- 分布：本州・四国・九州

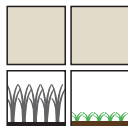


クサキリ（下）との大きさの比較

大型の種で全体に太く短く、頭部は大きい。体は緑色のものと褐色のものがいる。緑色のものは、背面側に黄褐色の1対の細い線が目立つ。頭の先は小さくて鋭くとがる。丈の高い草の上に登り、ジャー…というとても大きな声で連続的に鳴く。

クビキリギス

- キリギリス科 ●体長：27～34mm
- 出現期：10月～翌年の7月
- 分布：北海道・本州・四国・九州・南西諸島

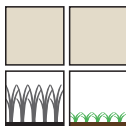


クビキリ（右）クサキリ（左）の頭

体は緑色のものと褐色のものがいる。クサキリより全体に体が細長く、頭の先は鋭くとがっていて、横から見るとはねの先が細い。口の赤い部分がとてもよく目立つ。成虫で越冬し、春から初夏に低木や草の上で、ジー…と連続的に鳴く。

クサキリ

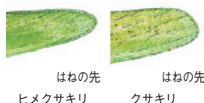
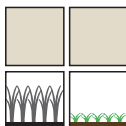
- キリギリス科 ●体長：24～30mm
- 出現期：8月～10月
- 分布：本州・四国・九州



体は緑色のものと^{かつしよく}褐色のものがいる。緑色のものでも、口、あしのすねより先、メスの産卵器は黄褐色から茶褐色。頭の先は^{すど}鋭くとがらず、はねの先が^{はん}幅広いのでヒメクサキリと^{くべつ}区別できる。真夏から^{あらわ}現れ、^{たけ}丈の低い^{ひく}草地でジーンと^{つづ}続けて鳴く。

ヒメクサキリ

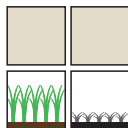
- キリギリス科 ●体長：22～30mm
- 出現期：8月～10月
- 分布：北海道・本州・四国・九州



体は緑色のものと^{かつしよく}褐色のものがいる。クサキリより全体に体が細く、頭の先はややとがり、はねの先が^{とく}細いのが特徴である。クサキリやクビキリギリスより、山地や寒冷地に^{ちよう}すむ傾向があり、^{けいこう}丈の低い^{たけ}草地に^{ひく}いて、鳴き声はクサキリとよく似ている。

オナガササキリ

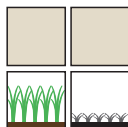
- キリギリス科 ●体長：15～21mm
- 出現期：7～9月
- 分布：本州・四国・九州・南西諸島



体は緑色で、他のササキリ類より大きくてがっちりした体をしている。背面や^{はいめん}はね、後あしや^{さんらん き}産卵器は^{かつしよく}褐色。産卵器は非常に長い。はねが腹部^{ふくぶ}を越える長翅型もある。ススキなど丈^{たけ}の高い草地で、ジリッ・ジリッ・ジリッ…と連続^{れんぞく}して鳴く。夜は鳴き声を変え、ジリリリ…と鳴く。

コバネササキリ

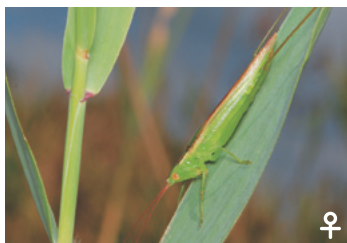
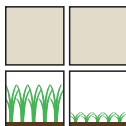
- キリギリス科 ●体長：13～20mm
- 出現期：8～11月
- 分布：北海道・本州・四国・九州・南西諸島



体は緑色と褐色のものがいる。どちらも背面^{はいめん}や^{さんらん き}はね、後あしのひざの部分から先や^{ふくぶ}産卵器は褐色。オスでは腹部とはねはほぼ同じ長さ、メスでははねのほうが短い。産卵器は長く、体長と同長かやや短い。長翅型もある。湿った草地に生息し、ジィ・ジィ・ジィ…と聞き取りにくい声で鳴く。

ウスイロササキリ

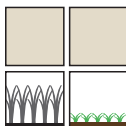
- キリギリス科 ●体長：13～18mm
- 出現期：9～10月
- 分布：北海道・本州・四国・九州



体は緑色のものと^{かつしよく}褐色のものがいる。どちらも^{はいめん}背面やはね、後あしや^{さんらんき}産卵器の先は褐色。横から見るとはねの下のはうは緑色で模様などはない。産卵器は短く、体長の1/3ほどの長さ。イネ科の植物が多い草地に生息し、シュルル^{もよう}…と^{れんぞく}連続して鳴く。

ホシササキリ

- キリギリス科 ●体長：13～17mm
- 出現期：9～10月
- 分布：本州・四国・九州・南西諸島



体は緑色のものと^{かつしよく}褐色のものがいる。どちらも^{はいめん}背面やはね、あしの先、^{さんらんき}産卵器は褐色。横から見るとはねの下のはうに細かな黒い点^{なら}が並んでいる。産卵器はやや短く、体長の半分ほどの長さ。イネ科の植物が多い草地に生息し、ジーイ・ジーイ…または、ジリ・ジリ…と鳴く。

な か ま コオロギの仲間

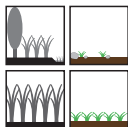
コオロギの仲間はバッタ目の中では、体が太いわりに短く、黒や茶色の地味な種が多い。「鳴く虫」として有名で、昼よりも夜のほうが活発に活動します。

コオロギ科の種は地表や地中で生活し、体の色は黒色から暗い褐色のものがほとんどです。マツムシ科の種は草の^{かつしよく}上で生活するものが多く、褐色から緑色でより^{はな}華やかです。



エンマコオロギ

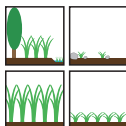
- コオロギ科 ●体長：29.5 ～ 34.5mm
- 出現期：7月中旬～11月
- 分布：北海道・本州・四国・九州



体は黒色から^{かつしよく}褐色で、顔の一部、目の後ろをのぞく部分が褐色、あしの付け根部分は赤褐色。メスの産卵管は長い。幼虫は全体に黒色で、小さいうちは腰の白い帯がよく目立つ。畑や丈の低い草地に生息し、夏のはじめ頃からコロ・コロ・リー…と大きな声でよく鳴く。

ツツレサセコオロギ

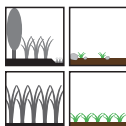
- コオロギ科 ●体長：15.5～16.2mm
- 出現期：7月中旬～11月
- 分布：北海道の一部・本州・四国・九州



エンマコオロギより小さく、オカメコオロギより大きい。体は黒褐色で、口や腹面、足などは褐色。産卵管は長い。人家の近くや畑、丈の低い草地に生息し、リ・リ・リ…と切れ目なく^{つづ}続けて鳴く。平安時代の人はこの声が「^{こっかつしよく}針刺せ、^{ふくめん}糸刺せ、^{さんらんかん}綴れ刺せ」と聞こえていたという。

ミツカドコオロギ

- コオロギ科 ●体長：16～20mm
- 出現期：7月中旬～11月
- 分布：本州・四国・九州

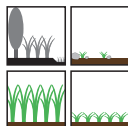


オス（左）とメス（右）の顔の違い

エンマコオロギより小さい。体は黒褐色で、口や腹面、足などは褐色。オスのひたいは平たく、頭のでっぺん側と目の外側が張り出し、全体に「三つ角」の形。メスの産卵管は短い。人家の近くや畑、丈の低い草地に生息し、リリリ・リリリ…と強く3～4音ずつ区切って鳴く。

ハラオカメコオロギ

- コオロギ科 ●体長：12.5～15mm
- 出現期：7月中旬～11月
- 分布：北海道・本州・四国・九州

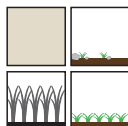


ハラオカメコオロギ ミツカドコオロギ

ツヅレサセコオロギより小さい。体は黒褐色で、口や腹面、足などは褐色。オスのひたいは平たく、「おかめ顔」である。メスの産卵管はあまり長くない。長翅型もある。畑やあぜ、丈の低い草地に生息し、リッリッリッ…と5～6音ずつ区切って鳴く。

タンボオカメコオロギ

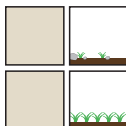
- コオロギ科 ●体長：11.8～16.2mm
- 出現期：7月中旬～11月
- 分布：北海道・本州・四国・九州



体は黒褐色で、口や腹面、足などは暗褐色。オスのひたいは平たく、全体に「おかめ顔」である。ハラオカメコオロギによく似ているが、腹面の黒みは強く、より湿った草地に好んですむ。鳴き声もよく似ている。

タンボコオロギ

- コオロギ科 ●体長：13.2 ～ 16.8mm
- 出現期：4 月中旬～ 11 月
- 分布：本州・四国・九州・南西諸島

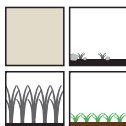


タンボコオロギ ハラオカメコオロギ

体の背面は黒から暗褐色で、腹面は淡褐色。頭部が黒く、触角の付け根の間にある細くて白い線が直線に見えることから、イチモンジコオロギともいわれる。後ろはねは長く、メスでは産卵管を越える。湿地に生息し、地中に穴を掘って、その中でジッ・ジッ・ジッ…と続けて鳴く。

クマコオロギ

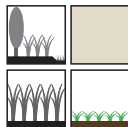
- コオロギ科 ●体長：11.6 ～ 12.2mm
- 出現期：7 月中旬～ 11 月
- 分布：本州・四国・九州



体の背面は黒色で腹面は淡褐色。白い口ひげと赤褐色のあしがよく目立つ。オスのはねの先は腹部を越えない。メスのはねが短く、背面から見ると腹部が半分ほど出て見える。産卵管は長い。湿った草地に生息し、日中からチルッ・チルッ…と鳴く。

クマスズムシ

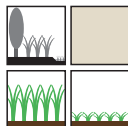
- コオロギ科 ●体長：10～12mm
- 出現期：7月中旬～11月
- 分布：本州・四国・九州・南西諸島



体は黒色で、全体に後方が幅が広くてずんぐりした、スイカの種のような形をしている。黒い触角の中ほどが白く、ひげから先がよく目立つ赤褐色。メスははねがやや短く腹部の先が見える。やや湿った草地に生息し、リュウ…と高い声で弱く鳴く。

スズムシ

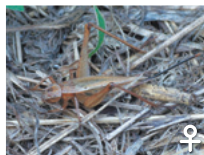
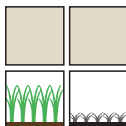
- マツムシ科 ●体長：16.5～18.5mm
- 出現期：7月中旬～11月
- 分布：北海道（帰化）・本州・四国・九州



体は黒褐色で、あしの付け根部分や尾肢は褐色。黒くて長い口ひげが目立つ。触角は中央部分が白く、先端が黒い。オスははねの幅が広く、中央よりやや後方で最大幅となる。メスははねが細く、中央で最大幅となり、産卵管は長い。野外では藪の奥に潜み、リーン・リーン…と鳴く。

マツムシ

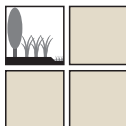
- マツムシ科 ● 体長：18.5 ～ 21.5mm
- 出現期：7 月中旬～ 11 月
- 分布：本州・四国・九州



体は全体に^{かつしよく}褐色で、^{ふくめん}腹面はより^{あわ}淡い色をしている。オスは^{はば}はねの幅が広く、メスはより細い。^{さんらんかん}産卵管は長い。チガヤなどの^{たけ}丈の^{かわ}高い乾いた草地に生息し、オスは草の根元のあたりで頭を下にして、チン・チロリン、チン・チロリンあるいは、チッ・チリッと澄んだ声で鳴く。

アオマツムシ

- マツムシ科 ● 体長：21.8 ～ 22.5mm
- 出現期：7 月中旬～ 11 月
- 分布：本州・四国・九州

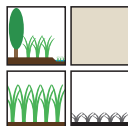


幼虫

体は全体にあざやかな緑色で、オスははねの中央部分が^{かつしよく}褐色。樹の上で生活するコオロギで、秋になると公園や市街地の^{しがい}街路樹から、^{がいろじゅ}リーリー…と^{しゅうだん}集団で鳴く声が聞こえる。^{がいと}街灯や店の明りに^と飛んできくこともある。中国からの^{がいらいしゅ}外来種で、今では山地森林部にも^{ぶん}分布を^ぶ広げている。

カンタン

- マツムシ科 ●体長：14.7～17.5mm
- 出現期：7月中旬～11月
- 分布：北海道・本州・四国・九州

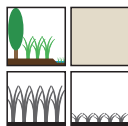


全体にはねの幅が広い、ヒロバナカンタン

体は全体に細長く、うす緑色から黄色。はねはやや透き通って見える。腹面は中央部が縦に黒色。産卵管も暗い色で、先端は太くとがっていない。クズの多い草地や林縁に生息し、オスははねを立てて、リューまたはルルルル…と上品な声で続けて鳴く。

クサヒバリ

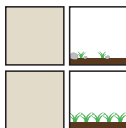
- ヒバリモドキ科 ●体長：6.9～7.5mm
- 出現期：7月中旬～11月
- 分布：本州・四国・九州・南西諸島



体は全体に淡い褐色で、あしやはねに暗い褐色部分がある。後ろあしのももの黒い帯がよく目立ち、はねの脈やあしの付け根は白く見える。産卵管は尾肢より短く、先が背面にそっている。生垣や林縁に生息し、日中でもフィリリリリ…とやさしい声で鳴く。

マダラスズ

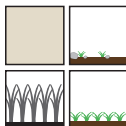
- ヒバリモドキ科 ●体長：6.2～7.7mm
- 出現期：7月中旬～1月
- 分布：北海道・本州・四国・九州・南西諸島



体は暗い色で、あしは黒色と灰色のまだら模様。口ひげやあしの付け根が白く見え、口ひげの先端だけが暗い色。メスには短翅型もある。産卵管は尾肢と同じ長さ。公園や駐車場などの乾燥した場所や芝地に好んで生息する。ジーッ・ジーッ…と単調に鳴く。

シバスズ

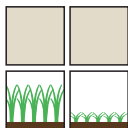
- ヒバリモドキ科 ●体長：6.1～6.6mm
- 出現期：4月中旬～1月
- 分布：北海道・本州・四国・九州・南西諸島



体は淡い褐色で、体側や腹面は暗い色だが、腹面は褐色。産卵管は尾肢より少し長く、背面にそるよう曲がっている。公園や畑、畦などの丈の低い草地に好んで生息し、草の生えてない場所にはいない。ジー…と長く音を引っぱって鳴く。

ヤチスズ

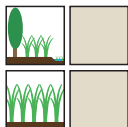
- ヒバリモドキ科 ●体長：6.2～9mm
- 出現期：4月中旬～11月
- 分布：北海道・本州・四国・九州・南西諸島



体は全体につやのある暗い褐色で、腹面は褐色、頭部や前胸、あしなどは淡褐色のものもいる。はねは暗色で肩の部分は縦に褐色の線が出るものが多い。産卵管はやや背面にそるように曲がっている。丈の低い湿った草地に生息し、ジー・ジー…としり上がりに長めに鳴く。

カネタタキ

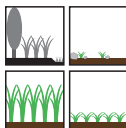
- カネタタキ科 ●体長：7～11mm
- 出現期：7月中旬～11月
- 分布：本州・四国・九州・南西諸島



体は茶褐色から黄褐色で、灰色や暗色の細かなまだらがある。オスは頭部と前胸が赤褐色で、前胸後縁は灰色の带状、はねの縁は暗褐色。メスは成虫になってもはねがない。生垣や庭木、林縁の低木の葉や枝の上に生息して、鐘をたたくようにチン・チン…と小さくか弱い声で鳴く。

ケラ

- ケラ科 ●体長：30～35mm
- 出現期：1年中
- 分布：日本全土



幼虫

体は茶褐色^{ちゃかつしよく}から暗褐色で、腹面^{ふくめん}は黄褐色。前あしは左右に動き、モグラの手のようにギザギザした形をしている。上ばねは短く、腹部が半分はみ出して見える。普段は田んぼや畑、草地の土中^{あなほ}で穴を掘って生活している。夜、街灯^{がいとう}や店のあかりに飛んでくることもある。泳ぎもうまい。

コラム

田んぼで鳴くと
言われるミミズの
正体は？



モグラ

ケラは大きく平らになった前あしで土を掘るのが得意です。ケラの学名は *Gryllotalpa* で、「Gryllo-」はコオロギ、「talpa」はモグラという意味で、まさにモグラコオロギ。

また、ケラはまるで地中で鳴いているような地面に響き渡る声で、ロー・ロー・ロー…と鳴きます。昔から農家の人は、これを「ミミズが鳴いている」と言っていたようです。しかしミミズは鳴かないので、その正体はケラなのです。

な か ま バッタの仲間

バッタの仲間は、ほとんど昼間に活動します。また、キリギリスやコオロギのように長い触角しゅっかくをもっていません。「鳴く虫」という場合、ふつう、バッタは含みません。しかしバッタの場合は、「貧乏ゆすり」のように後あしをはねふくにこすって音を出したり、飛ぶときに後はねをこすり合わせて音を出したりします。

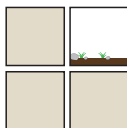
また、産卵さんらんの仕方にも特徴があります。

バッタのメスは腹部ふくぶの先にある産卵器さんらんきを土の中に差し込み上下にスコップを動かすようにして穴あなを掘り進み、まとめて卵を産みます。



ノミバッタ

- ノミバッタ科 ● 体長：4～6mm
- 出現期：4～5月と9～11月
- 分布：北海道・本州・四国・九州

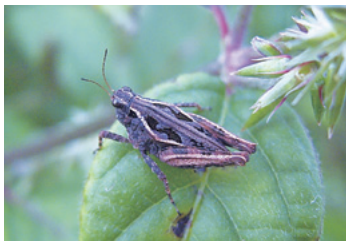
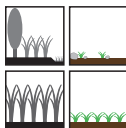


ヒシバッタ (中) オンブバッタ (右)
との大きさの比較

体は全体が黒色で光沢こうたくがあり、頭部と前胸ぜんきょうは丸みをおびている。触角は数玉状で、前あしと中あしのすねの部分は平たく、中央で幅が広がっている。後あしのももの部分はとても大きく、体のわりにジャンプ力がある。畑や公園の花壇、土が固められた裸地混じりの草地に生息する。

ハラヒシバッタ

- ヒシバッタ科 ● 体長：7.7 ～ 13.5mm
- 出現期：4 月中旬～ 11 月
- 分布：北海道・本州・四国・九州

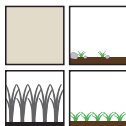


体がやや細いヤセヒシバッタ

ヒシバッタの仲間^{なかま}は体が短く、背面^{はいめん}から見るとひし形をしている。前胸^{ぜんきょう}が後方^のに伸び、腹部^{ふくぶ}のほとんどをおおっている。体は暗い褐色^{かっしょく}から褐色で、頭部^{あわ}や後あし、前胸^{おび}の背面^{はんもん}は淡い褐色の線や帯、黒い斑紋^まが混ざり、いろいろな模様^もをしている。前胸^{ちよう}よりはねのほう^{しけい}が長い「長翅型」もある。

トゲヒシバッタ

- ヒシバッタ科 ● 体長：16.5 ～ 20.5mm
- 出現期：4 月中旬～ 11 月
- 分布：北海道・本州・四国・九州

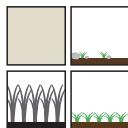


棘のないハネナガヒシバッタ

体は茶褐色^{ちやかっしょく}で、胸^{むね}やはねなどに目立った模様^{もよう}はない。背面^{はい}は頭^{めい}のてっぺんから前胸^{ぜんきょう}にかけて、黄褐色から褐色、暗い褐色のものがいる。前胸^{そくほう}は側方^{すうど}に大きくて鋭い棘^{とげ}を持ち、後ろ^のへ伸びて完全にはねをおおっている。水田^{しづ}や湿地^ちなど湿った草地に生息し、泳ぎもうまい。

オンブバッタ

- オンブバッタ科 ● 体長：20 ～ 42mm
- 出現期：8 ～ 11 月
- 分布：日本全土



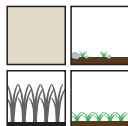
上左：オンブバッタ
上右：ショウリョウ
バッタ

オンブバッタの顔

体は全体に細長いひし形で、全身が緑色のものと褐色かつしよくのものがいる。緑色のオスでも触角や前・中あし、はねの先はわずかに赤褐色になる。ひたいには大小のイボがたくさん付ついている。丈たけの低い草地や畦あぜに生息し、オスがメスにおぶさる姿すがたをよく見かける。

ショウリョウバッタ

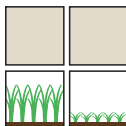
- バッタ科 ● 体長：40 ～ 80mm
- 出現期：8 ～ 11 月
- 分布：本州・四国・九州・南西諸島



頭とはね先がとがった細長い形で、全身が緑色、褐色かつしよく、その中間のものがいる。緑色のものでも触角や頭部、腹部には褐色の部分がある。褐色や中間のものは前胸やはねに暗い色や灰色の線や斑点がある。丈たけの低い草地に生息し、オスは飛ぶときにキチ・キチ…と羽音を出すことが多い。

ショウリョウバッタモドキ

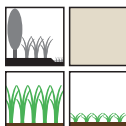
- バッタ科 ● 体長：27～57mm
- 出現期：8～11月
- 分布：本州・四国・九州・南西諸島



全体に頭とはね先がとがった細長い形で、ショウリョウバッタより小型で太く、後あしが短く、体はやわらかい。緑色と灰緑色のものがあり、触角や背面は褐色をしている。ススキなどのやや丈の高い草地に生息するが、場所は局所的である。飛んでも羽音は出ない。

ツチイナゴ

- バッタ科 ● 体長：50～70mm
- 出現期：10月～翌5月
- 分布：本州・四国・九州・南西諸島

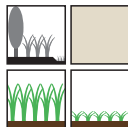


幼虫

体は褐色で、腹面はより淡い色。背面から見ると頭のとっぺんから前胸、はね先まで黄褐色の帯がある。目の下にはやや斜めの黒い筋があるのが特徴。水田や周辺の丈の低い草地に生息する。秋に成虫になり、そのまま冬を越す。冬でもあたたかい日には活動する。

コバネイナゴ

- バッタ科 ● 体長：16～40mm
- 出現期：8～11月
- 分布：北海道・本州・四国・九州



長翅型

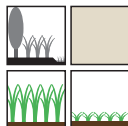


幼虫

体は褐色で、目の後ろからはねの付け根にかけて黒くて太い帯がある。体全体が褐色のものから、頭や胸の側面と背面、はねの背面、あしなどが緑色のものもある。ふつう、はねが腹部を越えない「短翅型」で、腹部を越える「長翅型」もある。田んぼや周辺の丈の低い草地に生息する。

ハネナガイナゴ

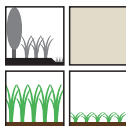
- バッタ科 ● 体長：17～40mm
- 出現期：8～11月
- 分布：本州・四国・九州・南西諸島



体は褐色で、コバネイナゴと同じように目の後ろからはねの付け根にかけて黒くて太い帯があるが、やや淡色で体はより細い。はねはオス、メスとも腹部より長い。田んぼや周辺の丈の低い草地に生息するが、分布は局所的であり多くない。

ツマグロバッタ (ツマグロイナゴ)

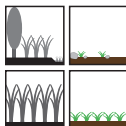
- バッタ科 ● 体長：33～49mm
- 出現期：7～10月
- 分布：北海道・本州・四国・九州



体は^{かつしよく}褐色から黄褐色で、オスは黄色味が強く、メスはより褐色。後あしの^{ひざ}膝とかかと部分、はねの先は黒色。横から見ると、はねの^{したかわ}下側に黄色の帯が目立つ。水田や周辺の^{せ たけ}背丈の高い草地に生息する。昼夜を問わず、^{しゅうだん}集団でシュツ、シュツ…と鳴くことがある。

トノサマバッタ

- バッタ科 ● 体長：35～65mm
- 出現期：7月～11月
- 分布：日本全土

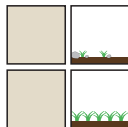


幼虫

体は^{あわ}淡い褐色で、体全体が褐色のものと頭部、^{ぜんきょう}前胸の背面、胸部の側面などが緑色のものとがいる。はねは側面から見ると、暗い色をした^{もよう}まだら模様がある。裸地もある^{たけ ひく}丈の低い草地に生息し、^と飛んでいるときに、はばたいた後はねで、ハタ、ハタ…と音を出すことがある。

クマバッタモドキ

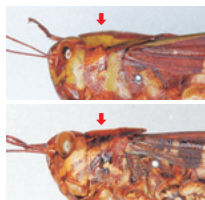
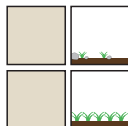
- バッタ科 ● 体長：32 ～ 65mm
- 出現期：7月～11月
- 分布：北海道・本州・四国・九州



全体に灰褐色で、暗い色の模様がある。前胸は上から見ると「X」の白い線が目立つ。緑色型は、全体に茶褐色で頭部、前胸、後あしに緑色の部分がある。飛ぶと、後ばねに車輪のような黒い帯が見える。オスは後あしをはねにこすって鳴く。草がまばらな裸地の多い草地に生息する。

クマバッタ

- バッタ科 ● 体長：35 ～ 65mm
- 出現期：7月～11月
- 分布：本州・四国・九州・南西諸島

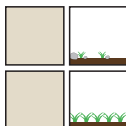


上：クマバッタ
下：クマバッタモドキ

全体に茶褐色で暗い色の模様があり、はねの暗い色の部分は広い。前胸は横から見ると中央で盛り上がっている。全体は茶褐色だが、頭部、胸部、閉じたはねの背面、後あしなどが緑色になる。飛ぶと、後ばねに車輪のような帯が見える。クマバッタモドキよりすむ場所が限られる。

イボバッタ

- バッタ科 ● 体長：24～35mm
- 出現期：7月～11月
- 分布：本州・四国・九州

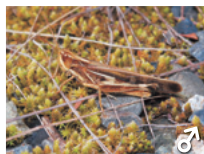
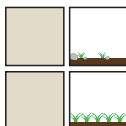


胸のイボのようなコブ

オス、メスともに茶褐色で、胸やはねなどに目立った模様はない。前胸の背面中央の前方と中央に、それぞれ大きなイボのようなコブがある。背面から見ると、後あしのももの部分に2本の黒い帯が見える。裸地の多い草地や畑、花壇などに生息し、オス、メスともよく飛ぶ。

マダラバッタ

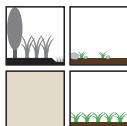
- バッタ科 ● 体長：27～35mm
- 出現期：8～11月
- 分布：北海道・本州・四国・九州・南西諸島



体は茶褐色で、頭部、前胸、前ばねに褐色の細かい模様がある。全体に茶褐色のものから、頭部、前胸、後ろあしが緑色のもの、時には全体に黄色っぽいものや赤っぽいものもある。横から見て、はねの下側に緑色から黄褐色の目立つ縦帯が特徴。河原などの荒れた場所に生息する。

ヒナバッタ

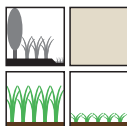
- バッタ科 ● 体長：19～30mm
- 出現期：4月下旬～1月
- 分布：北海道・本州・四国・九州



体は茶褐色から暗褐色で、前胸には「く」の字に曲がった白線が1対ある。横から見ると、はねの後方2/3の部分に小さな斜めの淡色の斑点がある。はねの先の部分は、よく似たヒロバネヒネバッタより細い。丈の低い明るい草地に生息し、後あしとはねをこすらせてシュルルル…と鳴く。

ナキイナゴ

- バッタ科 ● 体長：19～30mm
- 出現期：6～9月
- 分布：北海道・本州・四国・九州



体は黄褐色から暗褐色で、オスのほうが明るい色。体長のわりに触角が長く、オスでは体長のほぼ半分の長さ。オスのはねは短く、腹部がはねの先よりも長い。メスのはねはとくに小さい。夏にススキなどの丈の高い草地に生息し、後あしとはねをこすらせてジキ・ジキ…と連続的に鳴く。

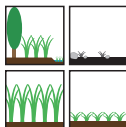
な か ま カマキリの仲間

カマキリはバッタの仲間ではありませんが、ナナフシとともにバッタ目に近い虫です。バッタの仲間がはねるための後あしが発達しているのに対し、カマキリは前あしが発達し、「カマ」のような形をしています。頭は目をふくめて、三角形で、上下左右によく動きます。すべての種が肉食で、昆虫などを捕らえて食べます。卵はあわ状のものがかたまつた「卵鞘」に包まれています。



コカマキリ

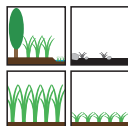
- カマキリ科 ● 体長：45 ～ 65mm
- 出現期：8 ～ 11 月
- 分布：本州・四国・九州



体全体が褐色から茶褐色で、前あしの内側の付け根に黒い帯、すねの中ほどに黒い帯と、淡い色の斑紋が2か所ある。ごくまれに体全体が緑色のものもある。丈の低い草地に生息し、昆虫を待ちぶせ、捕らえて食べる。卵鞘は長さ1.5cmほどで細長く、石や板切れなどに産みつけられる。

オオカマキリ

- カマキリ科 ● 体長：70 ～ 90mm
- 出現期：8 ～ 11 月
- 分布：本州・四国・九州



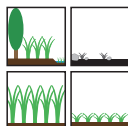
後ばね

卵鞘

体全体が緑色のものと、はねの縁などが緑色でそれ以外の部分が褐色のものがいる。カマキリに似るが、前胸の前あしの付け根にはさまれた部分が淡黄色で、後はねはほとんど黒い。丈の高い草地や林縁に生息し、昆虫を捕らえて食べる。卵鞘は4cmほどで、幅と高さがほぼ同じ。

カマキリ (チョウセンカマキリ)

- カマキリ科 ● 体長：60 ～ 85mm
- 出現期：8 ～ 11 月
- 分布：本州・四国・九州



後ばね

卵鞘

体の色や体形はオオカマキリに似るが、前胸の前あしの付け根にはさまれた部分は燈赤色で、後はねはほとんどの部分が透き通っている。丈の高い草地や林縁に生息し、昆虫を待ち伏せ、捕らえて食べる。卵鞘は長さ4cm以上で、幅は狭く全体に細長い。

バッタやコオロギのすむ生息環境^{かんきょう}

バッタやコオロギは種類^{しゅるい}によってすんでいる環境が少しずつ^{ちが}違います。

畦^{あぜ}

田んぼの畦や畑の境目^{さかいめ}は、小さな草はらになっています。



生えている草が膝^{ひざ}くらいまで草丈^{くさたけ}のあるときは、ヒメギス、ウスイロササキリ、ホシササキリ、ショウリョウバッタ、コバネイナゴ、ツチイナゴなどがいます。

草刈^{くさか}りをして草丈^{くさたけ}が低くなったり土が見えるようになったりすると、クサキリやエンマコオロギ、ツツレサセコオロギ、ハラオカメコオロギ、タンボコオロギ、マダラスズ、シバズ、ハラヒシバッタ、オンブバッタ、コカマキリが見られるようになります。

藪^{やぶ}

田んぼや畑のそばには、林などに沿って藪^{やぶ}があります。



藪の低い木や草丈の高い草の葉の上には、セスジツユムシ、クツワムシ、ウマオイ、ヤブキリ、カンタン、クサヒバリ、カネタタキなどがいます。野外では、スズムシもこのような藪の中の地面に生活しています。

また、ヤブキリやアオマツムシは木の上にいることもあるので、高いところから鳴き声が聞こえます。

いろいろな環境を探したほうが、より多くの種に出会えます。
また、環境によって見つかる種も決まってくるので、正しく種
を識別するために、どんな環境で調べるのが重要になります。

原っぱや畑

畑や休耕田、空き
地には草はらがあ
ります。



広く草はらになっているところは、バッタ類の宝庫です。ススキなど
少し丈の高い草はらには、ツユムシ、キリギリス、カヤキリ、オナガサ
サキリ、マツムシ、ショウリョウバッタモドキ、ツチイナゴ、ツマグロバッ
タ、ナキイナゴ、オオカマキリなどがいます。

また、丈の低い草やまばらに裸地がある草はらには、クビキリギス、
エンマコオロギ、ミツカドコオロギ、トノサマバッタ、クルマバッタモ
ドキなどが、あまり草がなく裸地の多い畑や空き地には、ノミバッタ、
イボバッタなどがいます。

湿地

土が湿っていたり、
水浸しになったりし
ている草はらにも、
特有な種がいます。



草はらの中でも、とくに土が湿っているところでのみ生活する種がい
ます。コバネササキリ、ヤチスズ、トゲヒシバッタ、ハネナガイナゴな
どは湿地を好む種です。また、クマコオロギ、クマスズムシ、ケラなど
も湿った所を好みます。

鳴き方のいろいろ

鳴く虫の代表と言えば、キリギリスやコオロギ。鳴き方や鳴き声の意味についても考えてみましょう。

鳴き方の分類

鳴く虫たちはどのようにして音を出しているのでしょうか。

はねとはねを^{こす}擦り合わせて

キリギリスやコオロギの^{なかま}仲間の鳴き方。オスははねのヤスリの部分を擦り合わせて音を出す。秋の終りになるとコオロギの声がかすれてくるのは、気温が下って^{おそ}はねを擦る速さが遅くなるため。

あしをはねに擦らせて「もも鳴き」

止まっているバッタは、後ろあしを^{すばや}素早く動かし音を出すことがある。ナキイナゴやヒナバッタのオスがこのようにしてよく鳴くが、トノサマバッタやクルマバッタモドキ、マダラバッタなども同じように鳴く。

はねを羽ばたかせて「^と飛び鳴き」

ショウリョウバッタは「キチキチ…」、トノサマバッタは「パタパタパタ」、クルマバッタモドキは「トゥルルル…」など、飛びながら音を出す。これは、仲間を呼ぶために出している音という^{せつ}説もあるが、その意味はよくわかっていない。

その他（^{しんどう}振動で^{こうしん}交信）

コバネイナゴのメスは別のイナゴを嫌って「タタタ…」とタップするように鳴く。オンブバッタやクルマバッタモドキも同様の行動をとる。小さいコオロギの仲間では、よく聞こえないが、止まっている植物を^{こきぎ}小刻みにあしでたたいて揺らし、オスとメスが交信する。

鳴き声の意味

同じ種でも場面によって鳴き方が違います。

^よ呼び鳴き

同じ種のメスを呼ぶと同時に、他のオスに自分の存在を知らせる鳴き方。鳥にならって「さえずり」といわれる。

^{きゅうあい}求愛鳴き

メスが近くにきた時に、オスがメスの前で求愛のために行う鳴き方。弱い声で鳴くことが多い。

^{とうそう}闘争鳴き

オス同士の^{たたか}闘いの間やその直前に発する鳴き方。闘いに勝ったオスは、^{しょうり}勝利の鳴き声を出すこともある。

キリギリス類とコオロギ類の鳴き方の^{ちが}違い

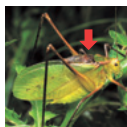
キリギリスとコオロギでは鳴いているときの格好^{かっこう}が違います。キリギリスははねを少し開いて鳴きますが、コオロギでは、はねを大きく立てて鳴きます。(➡は音を出すヤスリの部分)

キリギリス

左ばねの裏側^{うらがわ}にあるヤスリ^{うらがわ}を右ばねの縁^{ふち}でこす^{こす}るため、左ばねが上になります。



ウマオイ



クツワムシ



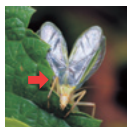
カヤキリ

コオロギ

右ばねの裏側にあるヤスリ^{うらがわ}を左ばねの縁^{ふち}でこす^{こす}るため、右ばねが上になります。



マツムシ



カンタン



クサヒバリ

鳴き場所のいろいろ

鳴く虫^{きが}を探すときには、それぞれの種^{しゅ}がどのような場所でよく鳴いているのか調べてみましょう。

葉の上

キリギリスの仲間^{なかま}は、植物の葉や茎^{くき}などに止まって鳴いているが、葉や茎^{うらがわ}の裏側にいることも多いので注意しよう。

葉の根元

マツムシなどのように、鳴き声はしていても、ススキやチガヤなどの根元で鳴いているため見つけにくい種もある。

土の上

スズムシやバッタの仲間は、地面の土の上で鳴いているので、じっくりと丁寧に探せば見つやすい。

土の中

コオロギの仲間は、地中に小さな穴^{あな}を掘ったり、石の隙間^{すきま}などで鳴いたりして見つけにくいものも多い。

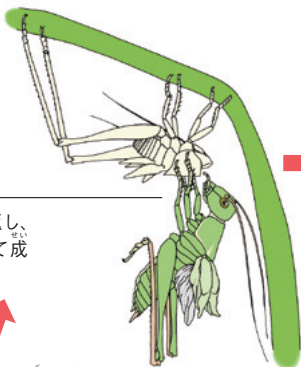
キリギリスの一生

夏の日中、草むらで
よく鳴くキリギリス

ヒガシキリギリス

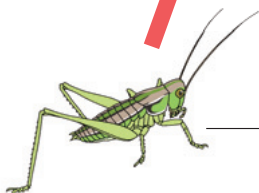
羽化

6回の脱皮を繰り返し、
夏までには羽化して成
虫になる。



幼虫の成長

小さい幼虫は緑色で、
背中側が幅広く茶色。
春にはタンポポやハル
ジオンの花によく止まっ
ている。



ふ化

5月ごろふ化する。ふ化
は夜明け前から始まる。



日本のキリギリスはこれまで、北海道にハネナガキリギリスが、沖
縄にオキナワキリギリスが、そして本州・四国・九州にキリギリス
が知られていた。しかし、最近、近畿地方の一部と中国・四国・九
州に分布するニシキリギリスと、岡山県より東の地域から東北地方
まで分布するヒガシキリギリスの2種に分けられている。

夏の昼間に少し高い草丈の茂みで「チョン・ギース」と鳴き、昔は「虫売り」といわれる屋台でもよく売られていました。

鳴き出し

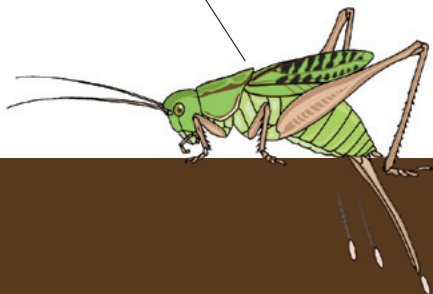
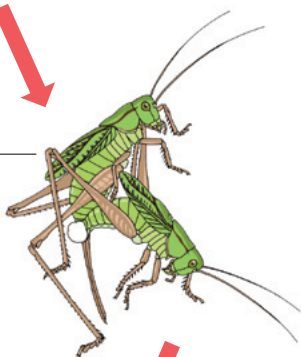
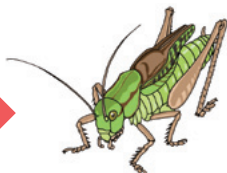
つゆ
梅雨明けのころから鳴き始め、気温が 30℃ くらいになると活発に鳴き、涼しくなると鳴かなくなる。

交尾

8～9月ごろ草の上などで、精包の受け渡しをする。

産卵

深さ 2～3cm くらいの土の中に、一つずつ卵を産む。



コオロギの一生

大きな声でよく鳴く
大王さまコオロギ

エンマコオロギ



羽化

ふつう9回の脱皮をし、
8月ごろ羽化して、成
虫になる。



幼虫の成長

ふ化した幼虫は2～2
カ月半かけて成長する。
小さいときの幼虫には
腰に白い線がある。

ふ化

6月ごろふ化して、土の
中から出てくる。



北海道から九州までふつうに見られるエンマコオロギのほかに、北海道・東北から本州中部までの河原など限られた場所に生息するエゾエンマコオロギがいる。また本州の三重県より西の地方に分布するタイワンエンマコオロギなどがある。

畑やあぜ、^{ひく}低い^{くさたけ}草丈の原っぱなどにおいて、よく聞こえる大きな声で「コロ・コロ・コロ・リー」と鳴きます。



鳴き出し

オスは羽化後3～4日
すると鳴き始める。
^{さいしょ}最初は鳴き方が下手。

交尾

9～10月ごろ地表や地
中の^{あな}穴^との中で、^{せいほう}精包^この
^う受け渡し^{わた}をする。



産卵

卵を一つずつ土の中に産み、その
数は1日に10～20個ほど。4～
5日休んでまた産む。1匹のメスが
全部で100～200個の卵を産む。



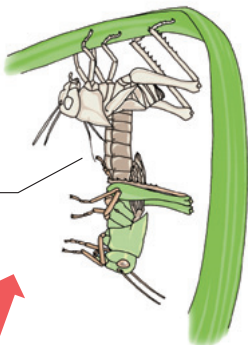
バッタの一生

草むらのバッタで
一番大きいとのさま殿様

トノサマバッタ

羽化

5回の脱皮だっぴをして、7月
ごろから羽化が始まる。



幼虫の成長

幼虫は草をよく食
べ、2カ月ほどでど
んどん成長する。



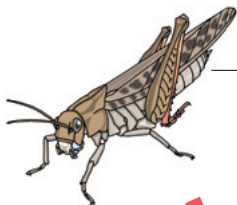
ふ化

東日本では、5月ご
ろからふ化が始まり、
幼虫が地上に現れる。



トノサマバッタは、狭い範囲でたくさんの卵がかえり、幼虫みっせいが密生した状態じょうたいになると、長いはねをもった成虫になることがある。時には大集団ちようきゅうりとなってえさを求め長距離を移動し、これが「飛蝗ひこう」と呼ばれる。

かわら
河原や草むらを体表する大型のバッタで、とてもよく飛び遠く
へ移動することもできる。

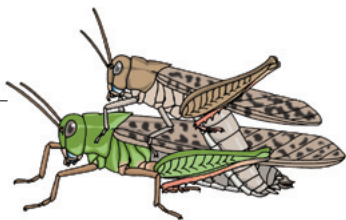


鳴き出し

せいじきく せいちゅう
成熟した成虫は、オス
もメスも後あしとはねを
こすり合わせ鳴く。
飛んだときも「ハタ・ハ
タ…」と羽音を出す。

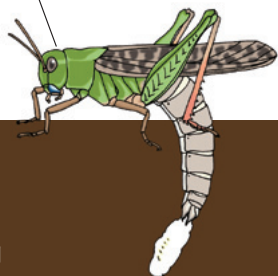
交尾

おもに9～10月ごろ土
の上で交尾をする。



産卵

土の中に卵のうを作り、その中に
ふつう 35～40 個くらいの卵を産
む。1匹のメスが卵のうを8～12
くらい作る。



おんだん ちいき
(温暖な地域や西日本では、1年間
でこのサイクルを2回くり返す。)

鳴く虫やバッタの文化史

えどじだい 江戸時代の鳴く虫売り

江戸時代の後半、人々の暮らしにだんだんとゆとりができてくると、「虫の音」を楽しむ文化が広まりました。このころから、屋台に鳴く虫を載せて、町のなかで売り歩く「虫売り」が盛んに見られるようになりました。



江戸時代の虫売りの屋台（再現：江東区深川江戸資料館）

屋形船型や扇型、水車小

屋型などをあしらった竹ひご製の凝った型の虫籠がつくられ、スズムシ、マツムシ、クツワムシ、カンタンなどは、商売用に飼育したものまでありました。それ以来、江戸東京は鳴く虫文化の中心地となり、戦前の昭和初期まで盛んでした。

かんしょうかい 鳴く虫の鑑賞会

影草の 生ひたるやどの
の 夕影に 鳴くこほろぎ
は 聞けど飽かぬかも（作
者不詳、万葉集・巻十・
二一五九／夕日が照らす宿
の庭の草かげに鳴くコオロ
ギの声は、いくら聞いても
飽きないなあ）



「虫聞き」の名所・道灌山（荒川区西日暮里）で、月をながめつつ虫の音を聞く江戸の人たち（安藤広重「東都名所」より）

このように、虫の声を聞く文化は古くは万葉集にも

詠まれています。日本人は昔から秋の風物詩として虫の声を楽しみ、季節の移り変わりを体感してきました。

現在でも、カンタンやマツムシなどの虫の声を聴く虫聴きの会が、市民団体等によって都市部を含め各地で催されています。

日本には、古くからスズムシやマツムシなどの鳴く虫を鑑かん賞しょうしたり、イナゴを佃煮つくだににして食べたりする文化があります。

つくだに イナゴの佃煮

イナゴは田んぼで収穫しゅうかく（獲かく）できる、貴重なタンパク源になる食べ物でした。

● イナゴの採り方

稲刈り前の田んぼまわりで、早朝に捕まえます。朝露ではねが濡れていると、バッタはうまく飛べないので、一匹ずつ手で捕まえることができます。子どもたちは網を使って捕まえることもありました。



● 佃煮のつくり方

- 1 通気性の良い袋などに入れて、1～2日かけてイナゴの体の中から排泄物を出させます。
- 2 沸騰したお湯に生きたままのイナゴを入れて茹でます。
- 3 イナゴが赤くなり茹であがったら、ザルに上げてゴミ等を取り除き、水気をよく切ります。この時、フライパンなどで空煎りすると香ばしさが増すようです。
- 4 1～2日間くらいはよく天日干しします。この時、好みによりはねやあしをとってもいいでしょう。
- 5 鍋でイナゴがひたひたにつかるくらいの水と砂糖、醤油を入れ、かき混ぜながら沸騰するまで強火にかけます。イナゴが鍋の中で踊るくらいが目安です。
- 6 沸騰したら中火から弱火にして、みりんを少々加え、汁気がなくなるまでよく煮詰めます。
- 7 水気がなくなり、イナゴ同士がくっつくくらいになったら、幅の広い入れ物に移してよく冷まします。なお、この際に塩一つまみとサラダ油をふり掛けて混ぜるとイナゴ同士がくっつかなくなります。

生きもの調査の基本①

田んぼで気をつけること

田んぼなどへ生きものの調査に行くときには、注意しなければならぬことがいろいろあるので、きちんと覚えて行こう。



1 あいさつしよう

田んぼは農家の人の仕事場だ。勝手に入らないようにしよう。田んぼに入るときは、農家の人に必ずあいさつしてからにしよう。仲よくなるといろいろと教えてもらえるよ。

2 畦をこわさないように気をつけよう

畦をこわしたら水もれを起こしてしまうので、ふざけて崩したりしないように気をつけよう。

3 イネなどの作物を傷つけないようにしよう。

田んぼやあぜで網を振るときや、イネがまだ植わっている状態で田の中の虫をを探するときには、イネを傷つけないように注意しよう。

4 ゴミは持ち帰ろう

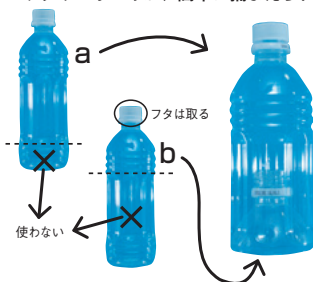
田んぼのまわりにゴミ箱はないので、ゴミは自分で持ち帰ろう。

鳴く虫を捕まえるテクニック

バッタやコオロギは、すばしっこく、すぐはねて逃げてしまう。また、手で捕まえると、触角やあしが取れてしまったりして虫を傷つけてしまうので、くれぐれも注意しよう。

■採集アイテムの作り方

バッタやコオロギが、簡単に捕まえらるるアイテムをつくろう。



①空のペットボトル（500ml）を2つ用意し、1つを上から3/4（a）、もう1つを上から1/4（b）で切る。

②aに、bを差し込むと出来上がり。

■アイテムの使い方

さあ、アイテムを持って、採集に行こう！



①虫を見つけたら、アイテムの底をそっと虫にかぶせる。



②びっくりした虫は、はねてアイテムの上の部屋に移動。



③採り出す時は、キャップを外して、振り出す。

■持ち帰りに便利なアイテム

いっぺんに、たくさんの虫を入れて持ち帰ると、虫同士がけんかをしたり、傷ついたりします。虫を傷つけずに持ち帰るには、1匹ずつ乳酸飲料の小さなプラ容器に入れて、ガーゼなどで容器の口をふさぎ、輪ゴムで止めて持ち帰ると便利。



生きもの調査の基本②

鳴く虫の飼いや声の鑑賞

田んぼの周りではたくさんの虫が鳴いています。いっぺんにいろいろな種が鳴いたり、同じ種でも1匹でなかったりするので、飼ってみて鳴き声を覚えよう。

飼いや方のポイント

飼いや方	鳴く虫の仲間	コオロギ類		バッタ類
		キリギリス類	葉などに止まっている種	
飼うときの入れ物	網（あみ）などで囲まれた虫かご		水そうや大きなタッパーなど	網などで囲まれた虫かご
入れ物の置き場所	乾燥（かんそう）しないよう、日光の当たらないところ			
	風通しのよいところ		あまり、明るくないところ	風通しのよいところ
入れ物内の工夫	立体的に動けるように、葉や枝を入れる		底に土を入れ、かくれ場所を用意する。	—
入れ物に入れる数	複数		1匹	
	（鳴き声を楽しみたいときは、メスを入れない方がいい。）			
えさの種類	動物性のえさ：に干し、カツオブシ 植物性のえさ：ツユクサ、コマツナ、イネ科の草、ナス、キュウリなど その他：金魚のフレーク状のえさ、カメのえさ			植物性のえさ
水飲み場	小さな容器に、水を含ませたミズゴケを入れて置く。 ペットボトルのふたによく水を含ませた綿（わた）をつめて置く。			
食べ残しの処理	えさの食べ残しがあると、不衛生（ふえいせい）になるので、虫をにがさずに、入れ物から食べ残しを取り出せるように工夫しよう。			

鳴き声を鑑賞するときの注意点

- 外では心地よい鳴き声も、部屋の中で聞くとうるさいこともあるので注意が必要です。
- スズムシは部屋の中でも優しい声ですが、エンマコオロギやマツムシは、部屋で聞くと意外と大声で眠りを妨げるほどです。そういうときは、庭やベランダに出して間接的に聞くとよいでしょう。
- クツワムシやカヤキリは声が大きいの、お勧めできません。室内で飼うのは小さいコオロギがよいでしょう。
（次ページの鳴き声一覧を参考に、選んでみてください。）

■本書で紹介している「鳴く虫」の鳴き声

頁	虫の名前	鳴き声
19	ツユムシ	プチッ・プチッ…／プツツツツジジジ
19	セスジツユムシ	ジーッチョ・ジーッチョ…
20	クツワムシ	ガチャ・ガチャ…
20	ハヤシノウマオイ	スーイ・チョン スーイ・チョン…
21	ヒメギス	シリリリリ・シリリリリ…
21	コバネヒメギス	チリッ・チリッ…
22	ヒガシキリギリス	チョン・ギース チョン・ギース…
22	ヤブキリ	シュリリリリ…
23	カヤキリ	ジャー…
23	クビキリギリス	ジー…
24	クサキリ	ジーン ジーン…
24	ヒメクサキリ	ジーン ジーン…
25	オナガササキリ	ジリッ・ジリッ…／ジリリリリ…
25	コバネササキリ	ジィ・ジィ・ジィ…
26	ウスイロササキリ	シュルルル…
26	ホシササキリ	ジーィ・ジーィ…／ジリ・ジリ…
27	エンマコオロギ	コロ・コロ・リー コロ・コロ・リー…
28	ツヅレサセコオロギ	リ・リ・リ・リ・リ・リ…
28	ミツカドコオロギ	リリリ・リリリ…（と3～4音ずつ切る）
29	ハラオカメコオロギ	リッリリリリリリ…（と5～6音ずつ切る）
29	タンボオカメコオロギ	リッリリリリリリ…（と5～6音ずつ切る）
30	タンボコオロギ	ジッ・ジッ・ジッ…
30	クマコオロギ	チルッ・チルッ…
31	クマスズムシ	リュー・リュー…
31	スズムシ	リーン・リーン…
32	マツムシ	チン・チロリン チン・チロリン…
32	アオマツムシ	リーリー…
33	カンタン	リューリュー…／ルルルル…
33	クサヒバリ	フィリリリリ…
34	マダラスズ	ジーッ・ジーッ…
34	シバズ	ジー・ジー…
35	ヤチズ	ジー・ジー…
35	カネタタキ	チン・チン・チン…
36	ケラ	ロー・ロー…
42	ツマグロバッタ	シュッ・シュッ…
45	ヒナバッタ	シュルルル…
45	ナキイナゴ	ジキ・ジキ…

宝くじから。 キラキラの夢と笑顔、

大当たりのときめきと、街づくりによる快道を。
宝くじはいつも身近なところで、
みなさまの暮らしに役立てられています。



- 当せんはしっかり調べて、かならず換金しましょう。
- 日本国内で外国発行の宝くじを購入することは、
法律で禁止されています。



財団法人 日本宝くじ協会

<http://www.jla-takarakuji.or.jp>

(この遊具「はにわっ子広場」(高松市峰山公園内)は、
宝くじの普及宣伝事業として設置されたものです。)

田んぼの生きもの図鑑 —昆虫編 バッタ目—

2011年2月23日発行

監修 石川 均(日本直翅類学会)

企画・発行 社団法人 農村環境整備センター

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4 農業土木会館1階

TEL03-5425-2461 FAX03-5425-2466 <http://www.acres.or.jp>

編集協力 財団法人 自然環境研究センター

制作協力 社団法人 農山漁村文化協会

この図鑑は水をはじく特殊紙「レインガード」を使っています。